

事故の原因を知って対策をしましょう！

子供向けの予防救急

そばにいる大人が救急事故から子供達を守るための注意を普段から心がけることが大切です。

1 転倒・転落

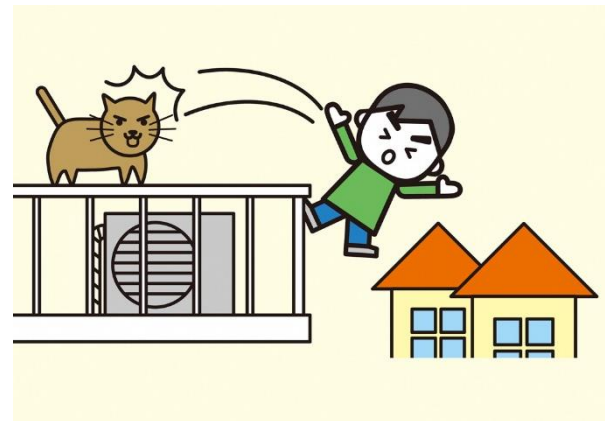
子供は全身に対して頭が大きく重いため、転倒・転落しやすくなります。

【事件事例】

- 3歳の子が階段から転落、顔面を負傷した。
- 2歳の子が浴室の床で滑り転倒、頭部を負傷した。
- 10カ月の子がベビーベッドから転落、頭部を負傷した。

【予防策】

- ◆階段にはゲートを設けましょう。
- ◆ベビーベッドの柵は必ず上げましょう。
- ◆浴室の床を滑らない工夫をしましょう。
- ◆ソファなどの上で遊ばせないようにしましょう。
- ◆ベランダに踏み台になりそうなものを置かないようにしましょう。



2 ^{ごえん}誤嚥・^{ごいん}誤飲

乳幼児は、親が目を離れた際にトイレトペーパーの芯を通るものなら、口の中に入れてしまい飲み込む危険があります。

※^{ごえん}誤嚥…異物が誤って気道内(空気の通り道)に流入すること。

※^{ごいん}誤飲…異物を誤って食べ物の通り道に飲み込むこと。

【事件事例】

■8カ月の子がタバコの吸い殻を^{ごいん}誤飲して嘔吐した。

■3歳の子がおもちゃを^{ごえん}誤嚥して呼吸困難となった。

■2歳の子が食べ物を^{ごえん}誤嚥して咳が止まらなくなった。



【予防策】

◆タバコや薬などは子供の背丈より高いところに保管しましょう。

◆子供の周囲に口に入りそうなものは置かないようにしましょう。

◆薬を飲んだあとはすぐに片付ける習慣を付けましょう。

◆漂白剤などは高いところや鍵のあるところに保管しましょう。

◆灰皿にタバコの吸い殻をためないようにしましょう。

3 やけど

子供のやけどのほとんどは未然に予防できると考えられています。

【事故事例】

- 2歳の子が、手をストーブの上に置いてしまい負傷した。
- 4歳の子がお茶をこぼし、熱湯が胸にかかり負傷した。
- 3歳の子が花火の火花が手にかかり負傷した。



【予防策】

- ◆ストーブなどは柵などで囲い子供が触れないようにしましょう。
- ◆ポットなどは子供の手の届かないところに置きましょう。
- ◆使い終わったアイロンは手の届かないところに置きましょう。
- ◆マッチやライターは手の届かないところに保管しましょう。
- ◆花火は子供だけで遊ばせず必ず大人と一緒に遊ばしましょう。

4 ^{できすい} 溺水(水の事故)

子供の溺水事故の多くは家庭内で起きており、大人がほんのわずかな時間目を離れたすきに発生しています。

【事件事例】

- 母親が洗髪中に、1歳の子が浴槽内で溺れていた。
- 母親が家事中に、2歳の子が水をはっていた浴槽内に落ちてしまった。
- 母親が電話対応のため3歳の子を浴室に残し、再び戻ったところ、浴槽内で溺れていた。



【予防策】

- ◆ 子供だけで浴室に入れないようにしましょう。
- ◆ 洗髪するときには子供は浴槽から出しましょう。
- ◆ 子供が小さいうちは浴槽の水は必ず抜きましょう。
- ◆ 洗濯機の近くに踏み台になるものを置かないようにしましょう。
- ◆ 手洗い場やバケツに水をはったままにしないようにしましょう。